

ふくしまの 今

みんなの元気を
取り戻したくて

福島市松川の仮設住宅の管理
人を務める佐野ハツノさんは、
昨年7月末に入居が始まった直
後から不安を感じていました。
「ほとんどの人が村を離れたこ
とがなく、家族と一緒に畑仕事
をして真面目に生きてきた人ば
かり。一カ月もたたないうちに、
元気が無くなった人たちが目に
つくようになったの」。

なかでも気がかりだったのが、
80歳になった菅野ウメさん。物

飯館村の女性たちが福島市の仮設住宅で
結成した「いいたてカーネーションの会」。
「まदै」*な縫い物の腕を生かしながら、
逆境を乗り越えるべく頑張っています。

※「まदै」とは、手間ひま
を惜しまず、丁寧に、じっ
くりと、つつましく、心を
込めたという意味。飯館
村の暮らしを象徴する
言葉です。

知りで働き者、地域
のみんなから頼りに
される存在だったウ
メさんが、仮設では
家に閉じこもり、あ
らゆる人との関わり
を拒んでいました。
心配して毎日訪ね
てくるハツノさんに
根負けして、ある日ようやく姿
を見せたウメさん。その時、着
ていた二部式の着物を見て、ハ
ツノさんにアイディアが浮かび
ます。

「この着物の作り方をみんな

いいたて
カーネーションの会



仮設住宅から飯館の「まदै」を発信！ 元気に縫い物を続けて恩返しを

いいたてカーネーションの会代表 ● 佐野ハツノさん（飯館村／福島市松川工業団地第1仮設住宅）



（上）「ここではみんな家族同様。だけど本当は村に
帰りたい」と菅野ウメさん。「いいたてカーネーションの会」という名前は、昨年放送されたNHK連続ド
ラマのヒロインに思いを重ねてつけました。

（右）古い着物をほどこし上衣ともんぺに作り直した
「まदै着」。「とても動きやすいんですよ」と佐野
ハツノさん。



絆つないで

地元の食材を使った特産品や料理開発を行っていた福島県東部のあぶくま地域の女性農業者たち。震災で避難生活を送る中、これまで磨いた腕を生かして食品の製造販売を行う「かーちゃんのカ・プロジェクト」の活動を進めています。

かーちゃんのカ・プロジェクト [福島市]

☎024(567)7273



▲3月に開催された福幸焼き・結プロジェクト



▲美味しいと評判の漬物づくり

一人じゃないから、頑張れる。
みんなでつなぐ、かーちゃんのカの味。

かーちゃんのカ・プロジェクトは、昨年10月末に福島大学小規模自治体研究所が避難している女性たちを支援するために立ち上げたプロジェクト。飯舘村から避難してきた渡邊とみ子さんは、震災でバラバラになった女性農業者の仲間を探し避難先を訪ね歩きました。その中で、「もらうばかりの支援ではなく、何か動き出したい」と多数の声が寄せられ、一緒に活動をスタートさせました。



▲販売している漬物や豆みそなどの商品

昨年11月に、NPO法人ほうらいから拠点となる「あぶくま茶屋」を借り、餅作りを開始。県外から食材の支援を受けながら「結もちプロジェクト」や、ねぎ焼きや凍み餅を振舞う「福幸焼き・結プロジェクト」を開催。そして今年5月からお弁当の販売を始めるなど、徐々に活動を広げてきました。かーちゃんたちが作ったお弁当や漬物、餅などの加工品は、放射性物質検査を実施し、安全なものを販売しています。

「一人では出来ないことも、みんなであれば力になる。失ったものは多いけど、諦めずに前を向いて進んだらたくさんの方に出会い、支えられてここまで来られた」と渡邊さんは話します。これからは、加工品販売のほか、イベントなどに参加し、故郷の味を次世代に伝える活動を続けていく予定。お世話になった方への感謝を胸に、かーちゃんたちの挑戦は続きます。



▲愛情たっぷりの「かーちゃんのカ笑顔弁当」



▲かーちゃんのカ・プロジェクト協議会の渡邊とみ子さん(右から2番目)たち

に教えてよ」——ハツノさんの言葉に最初は気乗りしない様子のウメさんでしたが、希望者はすぐに20人を超え、実際に集まって裁縫を始めるとウメさん持ち前の面倒見の良さがよみがえってきました。そもそも、この着物は古くなった着物をほどこいて作った普段着。古い着物も大切に丁寧に扱ってきた飯舘の「ままでい」な暮らしのなかで継承されてきた文化です。故郷への思いを共有しながら、手作業を続けるうちウメさんの目が生き生きと変わってきました。

全国から集まった応援 有名デパートから引き合いも

「ウメさんに釣られてみんなが明るくなるのがうれしくてね」とハツノさん。素材にするために「着ない着物をぜひ寄贈してほしい」とほうぼうに声をかけたところ、全国から「活用して」と古い着物が届きました。これを仕立て直した二部式の着物を「ままでい着」と命名。やがて各方面で話題となり、いまでは全国の有名デパートから引き合いがくるほどの人気です。「大切な着物をいただいても

ちゃんとお礼ができないのが心苦しくて」と話すウメさんたちには、ハツノさんは明るく声をかけます。「元気で続けていくことが何より恩返し。私たちみたいなたちが増えてくれるようにしたいよね」。

今年6月、ハツノさんは、内閣府「女性のチャレンジ大賞」防災・復興特別部門を受賞。「これは飯舘の人みんなの賞だから」と誇らしげな笑顔をみせてくれました。



(上)「ままでい着」などの品々は仮設住宅入り口にある店舗で購入することもできます。

(下)飯舘村から避難した115世帯が暮らす福島市松川工業団地第1仮設住宅。入居者の平均年齢は70歳を超え48世帯が一人暮らしです。

